

園名

荒川区立尾久第二幼稚園

テーマ

自然



テーマ設定の理由

自園は、生き物や草花、畑など身近な自然に触れる機会が多く、自然への親しみや関心をもつ幼児が多く見られているため「自然」をテーマ設定する。日常的な自然遊びがより探求的な遊びとなるよう、また自然事象を含む自然環境の工夫、デジタル機器等の活用の充実を図る。

活動スケジュール

令和8年5月～6月

- ① 色々な石、見つけたよ！
- ② 石磨き～ぼく・わたしの宝物～
- ③ 石を使った見立て遊び

準備した素材や道具、環境の設定

- 石に関心をもてるように、様々な石の写真を掲示した
- 石の性質や特徴に気付けるよう大きさや形など色々な石を用意した
- 石を遊びに取り入れる楽しさを感じられるよう、様々な環境を工夫して設定した
 - ・耐水ペーパー ・アクリルたわし
 - ・目を描いた丸シール
 - ・画用紙の草や池を貼った段ボール
 - ・絵の具を塗った石 ・ままごとに使う小石

活動事例① 色々な石、見つけたよ！

活動内容

戸外遊びをしている中で、数名の幼児が石を見つけて教師に見せにくる姿が見られた。
そこから石に関心を持ち始めたため、好きな遊びの中で教師も一緒に石を探すことにした。

活動の様子

幼児の姿・声・幼児同士や幼児と教師の関わり

戸外での好きな遊びの時間、数名の幼児と教師で色々なところを歩きながら石を探した。「見て！ここにも石がたくさんあるよ」「お砂場の中から石が出てきた！」と、様々な場所で石を探し、嬉しそうに教師に伝える姿が見られた。バケツを持ってきてそこにたくさんの石を集める幼児や、大きな石だけを探す幼児など様々で、砂や土がついた石を「洗いたい！」という幼児も多くいたため、たらいに水をためて石を洗う場を設置した。きれいになった石を見て、「この石白くておにぎりみたい」と見立てる姿も見られた。

また、A児は石と石をぶつけて音を鳴らしたり、石を地面に打ち付けて、「こっちの石は違う音がする！」と、石による音の違いに気付いて色々な石で試していた。近くにあった水道に石を滑らせて、「面白い音がするよ！」と、石から出る色々な音を楽しんでいたので、学級でもA児の姿を紹介した。



活動事例② 石磨き～ぼく・わたしの宝物～

活動内容

石探しをする中で石をきれいにしたいという幼児が多くいたため、石を磨いてより石への親しみや愛着がもてるように、石磨きの場や磨くための材料を設定した。

活動の様子

幼児の姿・声・幼児同士や幼児と教師の関わり

保育室前のピロティに机を出し、水を入れた桶とアクリルたわし、割りばしに小さく切った耐水ペーパーを貼ったものを用意した。教師が石を一つ選び、水に濡らしてから耐水ペーパーで磨くと、真似をして数人の幼児も石を選んで磨き始めた。耐水ペーパーで磨いたあとアクリルたわしで磨くとだんだん石がきれいになっていくため、その様子を見せると、「すごい！ピカピカだ」「ぼくもやりたい」と、繰り返したくさん磨く姿が見られた。磨いた石を眺めて嬉しそうにしたり、友達や教師に見せに行ったりして、石に対してより愛着をもつ姿が見られたため、豆腐カップに綿と不織布の座布団を敷き、より大事にできるような場を設定した。磨いた石は、一人一人が大事そうに座布団の上に乗せ、「明日も磨く！」と話す幼児もいた。



活動事例③ 石を使った見立て遊び

活動内容

石への関心が高まってきているため、石を使って様々な遊びが楽しめるように場を設定した。目や口になる丸シールを用意すると、石に貼ってより愛着をもって見立てながらごっこ遊びをする姿が見られた。

活動の様子

幼児の姿・声・幼児同士や幼児と教師の関わり

事前に白い丸シールにペンで目を描いておき、たくさん用意した。教師が繰り返し磨いた石に目を貼って周りの幼児に見せると、すぐに幼児も磨いた石を持ってきて目を貼り付けていた。目を貼り付けることで、自然とみんな声色を普段と少し変えて、「こんにちは！」などとなりきる姿が見られた。教師がすぐに遊び始められるよう、事前に板段ボールに画用紙の草や木・川を用意しておく、そこでごっこ遊びが始まった。教師も参加し、「かくれんぼしよう」と提案して、目を付けた石でかくれんぼをした。幼児から「滑り台も作りたい」「石のおうちを作る！」とアイデアが出たため、空き箱や牛乳パックでその都度幼児のイメージを聞きながら一緒に作った。遊び終わった後は、また大事そうに目をつけた石を自分の石の座布団の上に乗せていた。



振り返りによって得た教師の気付き

子どもたちは一つの素材である石に対して、自分なりの視点で興味や関心をもち、遊びを主体的に楽しむ姿が見られた。石探しでは、色や形、大きさ、模様の違いに気付き、「丸い石があった」「つるつるしている」など、それぞれがお気に入りの石を見付けることを楽しんでいた。石磨きでは、磨く前後の変化を繰り返し確かめながら、「もっときれいになるかな」「光ってきた」などと試行錯誤する姿が見られ、素材の変化に気付きながら探究する様子うかがえた。さらに、磨いた石に目のシールを貼ることで、一つ一つの石を生き物や家族、友達などに見立て、ごっこ遊びへと発展していった。子ども同士でイメージを共有したり、やり取りを楽しんだりする姿から、石という身近な自然物が豊かな発想やコミュニケーションを引き出す素材となっていることを改めて感じた。

今回の活動を通して、教師が遊び方を示すのではなく、子どもの発見やつぶやきを丁寧に受け止め、その興味に合わせて素材や環境を整えることが、遊びの継続や発展につながることを学んだ。また、子どもの姿を注意深く見取り、その時々への気付きに寄り添った言葉掛けを行うことで、子ども自身がさらに考えたり試したりする姿につながることを実感した。今後も、子ども一人一人の気付きや発想を大切にしながら、探究する過程を支える環境構成や援助を意識し、遊びがさらに深まるような保育を行っていきたい。